

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年1月15日(金)

### 《秩序を超える神の憐憫<sup>れんびん</sup>》

こんばんは

秩序という言葉があります。秩序を守ることは正しい事でしょうか。守らなくてもいいものでしょうか。例えば、日本は15年前の阪神、淡路大震災で国際的に話題になった事があります。それは、予想もつかない模範的な振る舞いをみせた人々のことです。大変な大惨事だったので、困る事は皆同じだったのですが、水を貰う時にも長い列を作って何時間も並んで、自分の番を待つ姿、窃盗ひとつなかった事。これは人類の歴史上、稀な事だと、そして日本人の秩序意識が話題になったのです。

さあ皆様、しかし秩序を超えるものがあります。秩序に勝るものがあります。それは何でしょう。今日の福音(マルコ2・1-12)で『四人の男が中風の人を運んできた。』とあります。けれども沢山の人が集まっていたので、家の中におられるイエス様の側に連れて行くことが出来ませんでした。それで、その四人は屋根まで登って『イエスがおられる辺りの屋根をはがして穴をあけ、病人の寝ている床をつり降ろした。』と聖書は語っています。その姿をみたイエス様は、中風の人を癒して下さったのです。

しかしちゃんと秩序を守らなければならないと思ひ、その現場で自分の順番を待ちながらイエス様に癒してもらえると堅く信じて来た人々はその4人の人が見せた行動を見てどんな気持ちになったのでしょうか。恐らくがっかりして、情けない思いをもって四人が全体的な事を見ないで、自分本位的に取ったその行動を悪い目を見たのではないのでしょうか。どう思いますか? 聖書の中の物語なので、私達はあまり抵抗なく読んだのですが、これが現実にも目の前で起きた出来事だと想像してみてください。

朝早く起きて、イエスが行っている奇跡の話を聞いて、自分もそれを頂きたくて遠くから出掛けて来たわけです。しかし、自分の順番がなかなか来なくて待っている時に、何処からやって来たか分からない人々が、屋根まではがしてイエス様の癒しを貰った姿を見たら、腹が立ちます。私達はこのような状況に出会ったら非難する心、文句を言いたくなる気持ちを持ってしまいます。けれども、それについてイエス様は、何の注意もしませんでした。逆に癒しを与えて下さいました。

秩序を超えるものは何でしょうか。

日本語では【憐れむ心とか憐憫<sup>れんびん</sup>】という言葉を使います。福音書では『イエス様が深く【憐れんで】』という言葉を使っています。

イエス様が当時使われた言語、即ちアラム語で【憐れみ・憐憫】という言葉は「この人を助けなくては、自分の内臓がねじれてしまうほどの痛みを感じてしまう。やってあげなくてはいけない。」という意味を持っています「やってあげなくては自分の心が痛くてたまらない。」という単語を使っているのです。ですから、「ただ、あの人がかわいそうだ、気の毒だ」という程度の言葉ではありません。

皆様、私達はこの社会で周りの人を意識することは必要な事です。ただ、それを強調しすぎると、自分自身を表しにくい社会になってしまいます。例えば人が誰か見ている所ではちゃんと守っている

事でも、誰も見ていない所では何でも平気に行ってしまうような事も沢山あります。

私は、ワンちゃんを連れて、たまに散歩します。この頃、道に処理されていないワンちゃんの後が、結構残されているのに気が付きました。二年前には殆ど見えなかったものです。しかし、よく考えてみると、夜とか朝早くワンちゃんを散歩させている人々を見かけます。袋は手にあるのですが、周りに誰もいない気配だと、そのまま置いて通り過ぎて行ってしまうのです。

皆様、今日の福音でもう一度考えて見ましょう。私達は社会のために守るべきものは必ず守らなければなりません。これは全体のために必要な秩序です。しかしそれに縛られてはいけません。これが全部であると言ってもいけません。時と場合によって何か心を動かす状況にあっては、その心に従うことが正しいと言えます。なぜなら、神様は私達の心をそのように許して下さったからです。

中風の病人を運んで来たあの四人が行った行為に対して、イエス様が見せて下さった心のように、私達が周りにいた人々だったら「あの友情はすばらしい、病人は良い友人に恵まれた人だ。」という余裕を持つ心を見せたいものです。

余裕です。心の余裕があれば、憐憫の心も友情の心も、持つ事が出来ると思ってみました。

二日前でしたか、中南米「ハイチ」で大きな地震がありましたね。今まで確認された死者が、6万人ぐらいいるとの話です。確認されていない状態で、沢山の人が犠牲になっています。「ハイチ」と言う国はアフリカから奴隷として連れて来られた人々が独立して出来た国です。長い間スペインの植民地、フランスの植民地下にあったのです。そして、最近20何年間、アメリカに支配されたとしても可笑しくない国でした。その中でも権力の争いが、なわばりの争いがものすごく激しくて、難しい状況にあった国です。なによりも、中南米の最貧国と言われている国です。人口は900万人。しかし800万人の家族が一日2ドルで暮らしています。2ドルといえば、今の日本円にして200円以下です。そしてその内、半分の人々は、一日1ドルで過ごさなければならない状態です。今回の地震の予想は政府がつかんでいたにもかかわらず、人々に知らせなかったそうです。

その様な事で、沢山の罪もない貧しい人たちが犠牲になってしまいました。

とにかく、多くの犠牲者を見て、“この世の中に神様っているのか”と疑う人も結構いると思います。「何故、慈しみ深い神様がこの様な惨事を手放して見ているのか」と、神様を訴えている人々もいると思います。しかし、100%私達の罪です。100%人間の罪です。分かち合う事の出来ない人間の愚かさによって、この様な犠牲は必ず起こります。

【神様のみ心は、どのようにこの世を、人間の世界を、愛しているか！】

それなのに、それを崩している、拒んでいる私達の罪はどれくらい深いかを、全ての人々が反省すべきだと思います。幸いに色々な国が早くから、その援助のために動いていますので安心です。この国に対して、私達太田の共同体も、何か小さくても心を顕わして行きたいものだと思ってみました。

ありがとうございました。